

2023. 12.13

報道関係者 各位

<配信枚数 2 枚>

【立命館土曜講座のご案内】

2024 年 1 月のテーマ「文字と絵画」

開催日程：2024 年 1 月 13 日(土)・20 日(土)

開催方法：ハイブリッド講座(対面・Zoom ウェビナー)

2024 年 1 月の立命館土曜講座は、立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所の企画として、「文字と絵画」をテーマに、ハイブリッド形式(対面・Zoom ウェビナー)で開講いたします。

どなたでも無料で受講いただけますので、ご関心のある方のご参加をお待ちしております。

記

■立命館土曜講座 1 月テーマ「文字と絵画」

(1)出土文字資料から見える先秦史-楚国を事例として

日時：2024 年 1 月 13 日(土) 10:00~11:30

ハイブリッド開催 会場:衣笠キャンパス末川記念会館+Zoom ウェビナー

(2)「辟邪絵」に見る疫鬼とそれを滅する神々

日時：2024 年 1 月 20 日(土) 10:00~11:30

ハイブリッド開催 会場:歴史都市防災研究所カンファレンスルーム+Zoom ウェビナー

開催方法：ハイブリッド講座(対面・Zoom ウェビナー)

内 容：別紙参照

聴 講 料：無料

定 員：衣笠キャンパス末川記念会館 180 人、Zoom ウェビナー400 人

歴史都市防災研究所カンファレンスルーム 35 人

※実施前日 12:00 までに要事前申込。定員に達し次第、受付を終了。

申込方法：立命館土曜講座の WEB サイトよりお申し込みください。

<https://www.ritsumeikan.ac.jp/doyo/>

以上

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ

●内容についてのお問い合わせ先

立命館大学衣笠総合研究機構 担当:武田・堀

TEL.075-465-8224

別紙

■立命館土曜講座 1月テーマ「文字と絵画」

(1)出土文字資料から見える先秦史-楚国を事例として

日時：2024年1月13日(土) 10:00～11:30

講師：立命館大学非常勤講師 白川静記念東洋文字文化研究所客員研究員 山田 崇仁

講師による内容紹介：

先秦時代の中国の歴史は、『尚書』・『史記』や『春秋左氏伝』などの文献資料が主要な研究材料であった。20世紀以降、甲骨文字の発見・青銅器銘文研究の進展・20世紀末以降の戦国～秦漢の簡牘の獲得など、新たに発見された同時代の文字資料(古文字／出土文字資料)を用いた研究が急速に進んだ。それにより、殷・西周は出土文字資料を用いた研究が主流となり、秦漢史研究も、大量の簡牘を分析する文書学的研究法が一大分野を形成している。

ただしその間の春秋戦国時代、特に春秋時代は、その前後に比べて出土文字資料の数が相対的に少ない。青銅器に銘文を記録する風習は春秋時代以降も続いたが、定型句が多く歴史研究の材料として利用可能なものは少ない。戦国竹簡の内容は、既存の先秦史研究に大きな衝撃を与えたが、同時代史料ではないため注意を要する。そのため春秋史の研究は、後世の編纂資料を主要な研究材料とせざるを得ない状況が続いている。

このように、資料の限界に制約される春秋史研究だが、今回の講演では数少ない出土文字資料を利用して、後世の文献が拾えなかった歴史的事実や同時代の歴史認識にスポットを当てたいと考えている。

(2)「辟邪絵」に見る疫鬼とそれを滅する神々

日時：2024年1月20日(土) 10:00～11:30

講師：武蔵野美術大学造形学部非常勤講師/早稲田大学教育学部非常勤講師 下野 玲子

講師による内容紹介：

奈良国立博物館が所蔵する「辟邪絵」は、邪悪な鬼を退治する神々が描かれた絵画です。「天刑星(てんけいせい)」「梅檀乾闥婆(せんだんけんたつば)」「神虫(しんちゅう)」「鍾馗(しょうき)」「毘沙門天」の5つがあり、もとは平安後期～鎌倉時代(12世紀)に制作された一巻の絵巻が切断されたものです。「天刑星」は毛髪の逆立った恐ろしい形相の神で、詞書(ことばがき)によれば「疫鬼(えきき)」をつかんで食べています。「梅檀乾闥婆」は小児の病の元凶となる鳥獣などの姿をした十五の鬼神の首を切り、鉾(ほこ)にその首を突き刺しています。「神虫」は大きな8本足の虫が鬼を押さえつけて食べる場所です。「鍾馗」は端午の節句でその人形を飾る風習が知られていますが、ここでは「疫鬼」をつかまえ目をほじくり出すという、かなり凄惨な場面です。「毘沙門天」は逃げる鬼を弓矢で射落としています。これらに描かれた鬼は病を中心とする害悪をもたらす存在です。それぞれにどのような形のもものが描かれており、どのような意味があるのか、中国・日本の関連作品も紹介しながら考えてみたいと思います。

■立命館土曜講座

1946年から続く、市民向けの無料公開講座。故・末川博名誉総長の「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにある。学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」との思いのもとに、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指しています。

<WEB サイト> <https://www.ritsumeit.ac.jp/doyo/>